

幼保連携型認定こども園における午睡の実態に関する全国調査（第二報）  
—管理者の特性と園の特徴が園児の午睡に関する意識と実践に及ぼす影響—

児童スポーツ教育学部  
教授 若尾 良徳  
2025.12

## 概要

幼保連携型認定こども園では、多様な子どもへの配慮から午睡の個別化が求められているが、実際には一律実施が多い。

本研究では、幼保連携型認定こども園における3歳以上児の午睡に関する管理職の認識や実践に対し、管理職の特性（年代・性別・保有資格）と園の特徴（運営主体・由来・園児数）がどのように影響を与えているかを、全国調査データを用いてロジスティック回帰分析により検討した。

管理職の年代が若いほど、また園児数が多い園ほど、午睡の必要性は園児によって異なると捉え、午睡をやめる時期の個別化や代替活動の実施など柔軟な対応を行っていた。さらに、運営主体や園の由来といった制度的背景も、管理職の認識や午睡実践に一定の影響を与えていた。

## 論文情報

掲載誌：睡眠と環境 19巻2号 p.14-23

タイトル：幼保連携型認定こども園における午睡の実態に関する全国調査（第二報）  
— 管理者の特性と園の特徴が園児の午睡に関する意識と実践に及ぼす影響—

著者名：若尾 良徳, 吉崎 亜里香, 加藤 篤, 鈴木 みゆき

URL : [https://doi.org/10.60259/jsleepenvi.19.2\\_14](https://doi.org/10.60259/jsleepenvi.19.2_14)